

評議員、理事、監事、懇談会記録

日時 昭和55年12月20日(土) 12.30~14.00

場所 竹橋会館

出席者 評議員：磯野、末広、畠山、増沢、山本、

常任理事：岸保、小平、浅井、若井、河村、杉村、竹内、増田、村山、

監事：田中、

懇談事項

岸保理事長あいさつ、

本日は、年末何かとご繁忙の折、ご出席下さいまして誠にありがとうございます。

懇談事項としましては、学会の財政問題と100周年記念事業の進捗状況について報告させていただきますので、皆様から忌憚のないご意見を賜わり、意義有る100周年としたいと思いますのでよろしく願います。

1. 財政問題

荒井理事から、資料に基づき次のとおり説明が行われた。

- (1) 56年分の会費は、順調に入金している。
- (2) 税金の見直しが行われ、約50万円納めたが、現状ではやむをえない。
- (3) 100周年記念事業のため、53、54年に550万円を、また、55、56年に400万円を積み立て、計950万円を実施したい。

2. 100周年記念事業の進捗状況について

岸保理事長から次のとおり説明が行われた。

- (1) 「天気」「気象集誌」の特別号を1982年に発行するが、「天気」はアンケートをとったりして細かい計画を進めており、また「気象集誌」も既に論文募集を、英文、和文でそれぞれの機関誌に告示してある。また、外国からの招待論文も掲載すべく、インビテーションレターを既に関係者に送っており、応答もきている。
- (2) 気象100年史も、75年史以降25年間をとりまとめ刊行する。
- (3) 1982年春季に、JSCの気候問題の研究会議を気象庁にサポートしていただく段階になっているが、開

催された場合、外国からの出席者のうち若干の方に記念講演をしてもらう。

秋には、WMO 熱帯気象地区技術会議をWMO・気象学会の共催で開催することについて、WMOから正式に回答がきたので、記念シンポジウムを催したいと考えている。米国の気象学会も共催したいと理事長ホワイト氏から連絡がきている。

- (4) 記念式典については、理事会・準備委員会でどのようにするか検討中である。

以上の説明に対し、評議員の方からいろいろと、適切かつ建設的な意見がよせられた。その主なものは、

- (ア) 国際会議等に必要なる予算的措置があったら早目に出して欲しい。
- (イ) 記念式典は、人の集まるような時期になるべく簡素に。
- (ウ) 気象展覧会を催すことは大変であるが、一般の人々の啓蒙のためにもなり、宣伝することにより気象事業の発展にもなる。それには新聞社にわたりをつけることよい。
- 台風、防災等として学会の名称を出せば効果があるのではないか、もちろん、関西、九州等で催すことも意義がある。
- (エ) 功労者の表彰。

3. IAMAP 第4回(1985年)の誘致について

岸保理事長からの話題提供に対し、

- (1) 来年ハンブルグにおけるIAMAPの理事会で誘致について意志表示をする。
- (2) 1985年に、筑波で科学博覧会が催される計画なので、それに便乗してやれば好都合であり、京都でやるより会場費が安くなるので、筑波で催すことのできるようににつめてゆく。
- (3) 誘致して実行するには、多額の経費が要るが、寄付で賄わなければならない。募金委員会の構成が問題となる。気象庁長官名使用については、了承され、できるだけことはしたいと述べられた。